

|  |    |      |    |     |    |    |
|--|----|------|----|-----|----|----|
| 野良生えバレイショのジャガイモYウイルスの保毒状況  |    |      |    |     |    |    |
| [要約]バレイショ植付前の圃場内および周辺に生育している野良生えバレイショからジャガイモYウイルス(PVY)が高率に検出される。 |    |      |    |     |    |    |
| 総合農林試・愛野馬鈴薯支場・環境科  | 専門 | 作物病害 | 対象 | いも類 | 分類 | 指導 |

[背景・ねらい]

長崎県の青果用バレイショで問題となっている「塊茎えそ病」、「茎葉のモザイク・えそ症状株」からはジャガイモYウイルス(PVY)が検出され、病原ウイルスであることが報告されている。PVYは、アブラムシおよび塊茎で伝搬することから、防除対策としてアブラムシの薬剤防除、植物防疫所の検査に合格した種いもの使用・更新が実施されている。また、その他の防除対策としてウイルスの伝染源となる可能性が高い「野良生えバレイショ(前作の掘り残しまたは圃場周辺へ廃棄した塊茎より生育したバレイショ)」の除去が指導されている。しかし、実際の栽培圃場をみると圃場内または圃場周辺に野良生えバレイショが生育していることがある。そこで、バレイショ植え付け前の圃場内外に生育する野良生えバレイショを採取し、PVYの保毒状況を調査することにより、野良生えバレイショ除去の重要性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. バレイショ植付前に、島原半島の6町(表)において採取した野良生えバレイショは、高率にPVYを保毒していることから、ウイルスの伝染源となる可能性が高い(図1)。
2. 野良生えバレイショに感染しているPVYは、そのほとんどがタバコ黄斑えそ病の病原ウイルスであるPVYのえそ系統と同様の葉脈えそ症状をタバコに引き起こす(図2)。

[成果の活用面・留意点]

本ウイルスの防除対策として圃場内および周辺に生育する野良生えバレイショ除去等の栽培環境整備が重要である。

[具体的データ]

表 野良生えバレイシヨの採取地

| 採取地名 | 採取株数 |
|------|------|
| 愛野町  | 32   |
| 吾妻町  | 26   |
| 千々石町 | 2    |
| 小浜町  | 18   |
| 南串山町 | 30   |
| 加津佐町 | 34   |
| 合計   | 142  |

- \* 平成13年7月採集
- \*\* 圃場内から採取する場合は1筆につき1株採取した

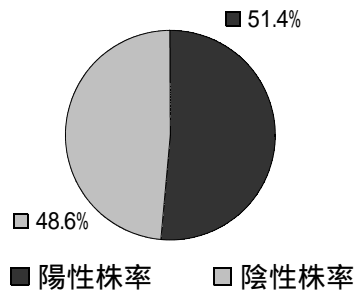


図1 野良生えバレイシヨからのELISA検定によるPVYの検出結果

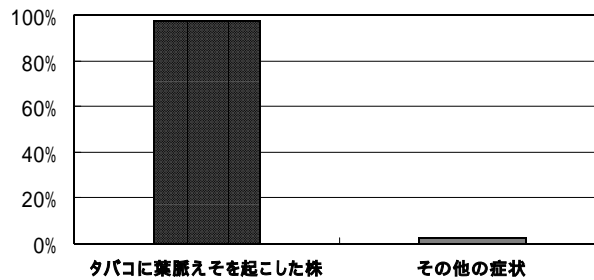


図2 ELISA検定で陽性と判定された株のタバコ(Xanthi nc)での病徴

[その他]

研究課題名：耕種的防除技術等を利用した昆虫伝搬性ウイルス制御技術の開発  
 予算区分：指定試験  
 研究期間：平成13年度（平成13～17年）  
 研究担当者：小川哲治、佐山 充